



Photostud

THE HOKKAIDO SHIMBUN HAI QUEEN STAKES

第73回 北海道新聞杯 クイーンステークス (GIII)

1着	2着	3着	4着	5着
本賞 38,000,000円	15,000,000円	9,500,000円	5,700,000円	3,800,000円
付加賞 525,000円	150,000円	75,000円		

レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

牝 3歳以上 除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳52kg 4歳以上55kg、2024.7.27以降 GⅠ競走1着馬3kg増、GⅡ競走1着馬2kg増、GⅢ競走1着馬1kg増、2024.7.26以前のGⅠ競走1着馬2kg増、GⅡ競走1着馬1kg増(たゞ1戦時の成績を除く)

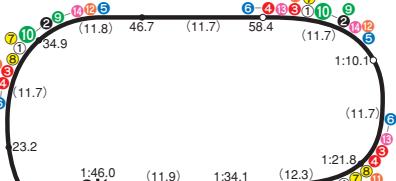
2025.8.3 札幌 晴・自 芝1800m- 国際 特指

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m) (増減)	馬体重 (kg) (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑩	アルジース	牝5	56	川田将雅	1:46.0	6-6-6-6	34.9	460(+2)	2.91	中内田充正(栗東)	106
2	④	コナハツブラン	牝5	55	北村友一	1:46.2	12-12-11-11	34.0	470(+20)	4.02	上村洋行(栗東)	103
3	②	フェアエルグ	牝5	56	丹内祐祐	1/4	5-5-4-2	35.5	462(+8)	7.54	和田正一郎(美浦)	104
4	①	ライラック	牝6	55	石川信紀	1/4	10-10-10-9	34.6	454(+12)	39.10	相沢 郁(美浦)	100
5	①	パレハ	牡4	55	鞍谷克義	クビ	6-7-7-7	35.0	440(-8)	26.58	新合谷(栗東)	
6	⑨	ピヨンダザヴァレー	牝5	55	藤田裕二	アダマ	4-4-4-4	35.7	480(+10)	24.67	橋口慎介(栗東)	
7	⑧	シングザットソング	牝5	56	武 茂	1/4	8-9-7-9	35.1	446(-4)	43.01	高野友和(栗東)	
8	⑫	アリストヴィエ	牝5	55	池謙譲一	3	2-2-2-2	36.8	482(±0)	11.26	中竹和也(栗東)	
9	⑯	クリスマスパレード	牝4	57	横山武史	ハナ	13-12-12-13	35.1	468(+8)	8.35	加藤津八(美浦)	
10	⑦	レゼデドラマ	牝3	53	R.キング	1	8-7-7-8	35.9	476(+16)	7.23	辻野泰之(栗東)	
11	⑥	ドナベイティ	牝4	54	藤岡佑介	1/4	14-14-14-14	34.9	428(-2)	16.15	矢作芳人(栗東)	
12	③	グラムスラムアスク	牝6	55	古川奈穂	クビ	10-10-10-12	35.8	470(+6)	304.04	矢作芳人(栗東)	
13	⑮	コンキシリ	牝5	55	佐々木大輔	1/4	1-1-1-1	37.5	482(-4)	14.62	清水久詞(栗東)	
14	⑯	フィールシンパンサー	牝6	56	横山裕人	1/4	3-3-3-3	37.3	456(-6)	29.18	小島昌也(美浦)	

単勝①280円(1人)、複勝②120円(1人)、③150円(2人)、④170円(3人)、特選⑤⑥730円(1人)

単勝①290円(1人気) 多勝①120円(1人気) ④150円(2人気) ②110円(3人気) 枠連③-⑥
馬連④-⑦800円(1人気) ワイド④-⑦350円(1人気) ②-⑦360円(2人気) ②-④590円(6人)

馬連④-⑩800円(1気) ブリ下④-⑩330円(1気) ⑤-⑩300円(2気) ⑥-⑩350円(8
馬單⑩-④1,740円(3気) 3連複②-④-⑩1,730円(1気) 3連單⑩-④-②6,540円(1気)



通過タイプ : 600ドル 800ドル 1000ドル

En. 800メートル 600メートル

アニカルト

- ・川田将雅騎手はミッキーチャームで制した19年に続くクイーンS2勝目。JRA重賞は本年5勝目、通算147勝目
 - ・中内田充正調教師はミッキーチャームで制した19年に続くクイーンS2勝目。JRA重賞は本年3勝目、通算45勝目
 - ・ロードカナロア産駒はJRA重賞通算89勝目
 - ・アルジースの母キヤタルフィーユは14年の本競走優勝馬。84年のグレード制導入以降では本競走初の母仔制覇
 - ・5歳馬の勝利は22年テルソネットに続く通算5回目
 - ・3連単6,540円は同式別における本競走の最低払戻金額
 - ・非抽選馬 2頭(アマイ、ランザローブス)

アルジーク Argine

牝 黒鹿毛 2020.4.25生

北海道新ひだか町 ケイアイファーム生産

馬主・株式会社ロードホースクラブ 栗東・中内田充正厩舎

馬名意味・トランプのクラブのクイーンに描かれた絵柄の人物名

ワンフォーローズCAN系 F12-d		
ロードカナロア 鹿毛 2008	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	レディブラッサム 鹿毛 1996	Storm Cat サラタガデューUSA
キャトルフィユ 鹿毛 2009	ディープインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーアIRE
	ワンフォーローズCAN 黒鹿毛 1999	Tejano Run Saucyladygaylor

5代までのインブリードなし

INTERVIEW

加藤健場長(ケイアイファーム)

誇らしい気持ちと責任を感じます

激戦だったヴィクトリアマイル以来の出走で、さらに異常な暑さの中での競馬でしたが、関係者の方々のご尽力があり、無事にゴールしたことに安堵しています。母がクイーンSを勝つてから11年後の母仔での制覇に、「強い馬づくりを目標に牧場の皆で継続的に取り組んできた結果だ」と少し誇らしい気持ちと、「また次の強い馬を作らなければ」という責任を感じます。



2023年のドゥーラ、昨年のコガネソラと、3歳馬の勝利が続いてきたクイーンSだが、今年の主役は5歳馬。ターコイズSの覇者アルジーヌと5月の3勝クラス特別を豪快に差し切ったココナツツブランが1、2番人気の支持を集め、フラワーC勝ちの3歳馬レーゼドラマがこれに挑む図式が描かれた。結果は4番人気のフェアエールングも含め、5歳馬たちが1～3着を独占。なかでもG1好走の実績を持つアルジーヌが背負った期待に応え、母仔制覇の快挙を達成した。

内内の枠を引いたコンクシェルがスタートを決めて先手を主張すると、同型のアリスヴェリテは2番手に控え、

ツツブランが強襲。とはいっても離れた追い比べの軍配は最後までしつかり伸びたアルジーヌにあがつた。母キャトルフィユは14年の優勝馬本馬が、初めて重賞に挑んだレースが3着に敗れたものの、暮れのターコイズSで初のタイトルを獲得。今春も阪神牝馬Sがハナ差2着、ヴィクトリアマイルも小差の4着と好走を重ね、この日は一枚上の地力をアピールして母に続く勝利を掴んだ。1年前の雪辱も果たして迎える秋は、どの路線へ進む

父ロードカナロア

北海道新ひだか町 ケイアイファーム生産 中央・香19戦13勝(香港スプリントG12回、安田記念G1、スプリнтерーズS G12回、高松宮記念G1)、年度代表馬、最優秀短距離馬2回、14年から供用。20～24年日本リーディング2位〔代表産駒〕アーモンドアイ(ジャパンC G12回、ドバイターフ・首G1、天皇賞(秋)G12回、牝馬三冠)、サートウルナーリア(皐月賞G1、ホープフルS G1)、ダノンスマッシュ(香港スプリントG1、高松宮記念G1)、パンサラッサ(ドバイターフ・首G1、サウジC・沙G1)、ペラジオオペラ(大阪杯G12回)、ステルヴィオ(マイルチャンピオンシップG1)、サトノレーヴ(高松宮記念G1)、ファストオース(高松宮記念G1)、プレイディヴィエーグ(エリザベス女王杯G1)、他に重賞勝ち馬多数

母キャトルフィユ

北海道新ひだか町 ケイアイファーム生産 中央25戦4勝(クイーンS G3、忘れた草賞G3、かもめ島特別、愛知杯G3着2着2回、中山牝馬S G3着2着) ロードラウレア(16 牝父ロードカナロア)中央7戦0勝、地方64戦4勝 ロードブリゲル(18 牝父キングカメハメハ)中央21戦3勝(茶臼山高原特別)、障害4戦0勝(2回) サンクフィール(19 牝父ロードカナロア)中央11戦3勝 アルジーヌ 本馬(20 牝父ロードカナロア)中央14戦7勝(クイーンS G3、ターコイズS G3、カシオペアS・L、博多S、太宰府特別、遊楽部特別、阪神牝馬S G2着、クイーンS G3着) 獲得総賞金223,666,000円 メルトユアハート(21 牝父ロードカナロア)中央12戦3勝(中京日経賞、一乗寺特別)(2回) フイオレストラーダ(22 牝父エピファネイア)中央2戦0勝(2回) スレイクイーン(23 牝父ロードカナロア) (25 牝父スワーヴリチャード) ※17(生後直死)、24(前年種付せず)

祖母ワンフォーローズCAN

北米15勝(シーグラムC・加G3、メイプルリーフS・加G32回、オンタリオメイトロンH・加L2回、シーグラムC・加L、アルゴマS・加3回、ジョージCヘンドリーH・加G32着、カナダ古牝馬チャンピオン3回、06年輸入、19年用途変更、レディアルバローザ(中山牝馬S G32回、ヴィクトリアマイルG13着、フィリーズレピュールG3着、朝日チャレンジC G3着)、エンジェルフェイス(フラワーC G3)の母、オールフォーラヴ(メズS・L、忘れた草賞G3)、ロードレゼル(青葉賞G22着)の祖母

2023年のドゥーラ、昨年のコガネソラと、3歳馬の勝利が続いてきたクイーンSだが、今年の主役は5歳馬。ターコイズSの覇者アルジーヌと5月の3勝クラス特別を豪快に差し切ったココナツツブランが1、2番人気の支持を集め、フラワーC勝ちの3歳馬レーゼドラマがこれに挑む図式が描かれた。結果は4番人気のフェアエールングも含め、5歳馬たちが1～3着を独占。なかでもG1好走の実績を持つアルジーヌが背負った期待に応え、母仔制覇の快挙を達成した。

内内の枠を引いたコンクシェルがスタートを決めて先手を主張すると、同型のアリスヴェリテは2番手に控え、

3コーナー過ぎからはフェアエールングがいち早く前に接近し、川田騎手もあわせて進出を開始。エンジンに火がついたアルジーヌは先行勢の外に迫って4コーナーを回り、そのまま勢いに乗って先頭に躍り出る。ゴール前では内々を突いて追い込んだココナツツブランが強襲。とはいっても内外離れた追い比べの軍配は最後までしつかり伸びたアルジーヌにあがつた。母キャトルフィユは14年の優勝馬本馬が、初めて重賞に挑んだレースが3着に敗れたものの、暮れのターコイズSで初のタイトルを獲得。今春も阪神牝馬Sがハナ差2着、ヴィクトリアマイルも小差の4着と好走を重ね、この日は一枚上の地力をアピールして母に続く勝利を掴んだ。1年前の雪辱も果たして迎える秋は、どの路線へ進む

主導権争いはスンナリと決着。しかし前半1000mの通過は58秒4とかなり速い流れ、総長の隊列でレースは進む。アルジーヌの川田将雅騎手は、フェアエールングを3馬身ほど前に見る形で離れた6番手を追走。ゲートで後手を踏んだものの、すぐに巻き返したレーゼドラマがその後につけ、ココナツツブランは後方2番手でじつくりと末脚を温存した。

3コーナー過ぎからはフェアエールングがいち早く前に接近し、川田騎手もあわせて進出を開始。エンジンに火がついたアルジーヌは先行勢の外に迫って4コーナーを回り、そのまま勢いに乗って先頭に躍り出る。ゴール前では内々を突いて追い込んだココナツツブランが強襲。とはいっても内外離れた追い比べの軍配は最後までしつかり伸びたアルジーヌにあがつた。母キャトルフィユは14年の優勝馬本馬が、初めて重賞に挑んだレースが3着に敗れたものの、暮れのターコイズSで初のタイトルを獲得。今春も阪神牝馬Sがハナ差2着、ヴィクトリアマイルも小差の4着と好走を重ね、この日は一枚上の地力をアピールして母に続く勝利を掴んだ。1年前の雪辱も果たして迎える秋は、どの路線へ進む

1番人気の期待に応え母仔制覇も達成